
東京魔人學園 異説伝 ~ 霊都帖 ~

仮蒼月零華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東京魔人學園 異説伝 〱 霊都帖 〱

【Nコード】

N8479J

【作者名】

仮蒼月零華

【あらすじ】

2015年…真神学園…一人の《転校生》が来ることにより眠りし《宿星》が目覚める…

そして《魔人》とは、また別の《力》を持つ者と出会うとき、決められていた《宿命》が変わり始める…！

東京魔人學園と真女神転生シリーズ、ペルソナシリーズのクロスオーバー小説

不定期連載で頑張っています

第零夜〜異変〜（前書き）

初めまして

仮蒼月零華と申します

初めて書いた作品なので誤字脱字や、分かりにくい表現があると思います。

また、オリジナル要素があるため、ゲーム本編とは、違う部分があると思います。その場合、あとがきで補足します。

ゲーム本編と矛盾してる箇所があれば教えていただけると助かります。

長々となりましたが、次から、本編なのでどうぞ楽しんで下さい！

第零夜〜異変〜

止まっていた刻が動き出し

眠りし《宿星》が目覚めたとき……

《四靈》の力

《帝》^{みかど}の封印が解け……

天地はハジマリとオワリを示す

そして……

魔人とはまた別の《力》を持つものが現れたとき……

《四靈》の《宿星》が変わり始める……

2014年……12月……東京……某所……

？「ハアハア……」

学生服を着た少女が、走る……

少女「ここ……まで……なら……」

走ってたためか、少女は、息を切らしていた……

何かから逃げるように……

しかし……

? 「うゝ おおおお! ! ! !」

少女「っ! ! !」

少女の背後には、異形なる者…… 鬼 がいた……

鬼「がああ…… ああああああ! ! ! !」

鬼は咆哮あげ、拳を振り上げ、少女めがけて降り下ろそうとする……

少女「… や、いやああああ! ! ! !」

その時だった……

鬼「がああ! ! ! !」

鬼が急につめき声をあげる……

少年「ちっ、また変なのか……。おいっ、あんた! !」

突然現れた少年は、少年に声をかける

少女「はっ、な……に……」

少女は、わけが分からず混乱していた

少年「早く逃げろ!!」

少女「はっ、はい!!!!」

少女は、混乱したまま走り出した

少女が逃げるのを確認して、少年は鬼と対峙する……

少年「まったく、アイツらとは、違うんだっけな……けど」

少年は、ニヤリと不敵に笑う

少年「こんな厄介事には、なれてるんでな……!!」

……それから数分後……その場所にいた少年と鬼は、居なくなっていた……

……それから4ヶ月……

2015年……東京……真神学園……4月

一人の《転校生》が来ることにより、それぞれの《宿星》と《力》が目覚め、物語が廻り始める……

第零夜〜異変〜（後書き）

プロローグなんです……が……

長いですね（汗）

私自身、初めて書いた作品なのですが、この三つ作品が好きなので「書いてみよう!」と言うノリと、挑戦で投稿してみました……が……

読みやすかったでしょうか？（汗）

あとがきも長々しくなってしまうましたが、これからも不定期連載で頑張っていきます!

第壹夜↳転校生↳ 一之項(前書き)

やっと第一夜です(汗)

それではどうぞー!!

第壹夜く転校生く 一之項

キーンコーンカーンコーン

4月…真神学園…朝…

2年C組

ガヤガヤと教室がざわめいている

女子A「ねえねえ、今日転校生来るんだって!!」

女子B「あゝ、確か天亥^{あまがひ}センサーと校長が話してたの聞いた子いるとか……。それ、マジだったの?」

女子A「うん!しかも男子だって」

女子C「イケメンだといいなあ」

女子A「だよねえ〜、うちのクラス、ましなの居ないし」

女子B「つーか、そんな男子、やすやすと近くに居ないし」

女子C「まっ、確かに(笑)」

ガララッ!

?「っ!!セーフ?!」

一人の少女が、息を切らし教室に入ってきた

少女A「あつ、おはよー桜華^{おうか}。まだ、センサー来てないよ」

少女…海月桜華^{うみつき おうか}は、ハアハアと息を整えていた

桜華「おはよー、そつか。セーフセーフ」

?「いいえ、ア・ウ・トですよ 海月さん」

桜華「……げっ…、天亥センサー……。でっ、でも、教室には入ってるし……」

天亥「席に座る時間になってましたよ？チャイムも鳴ってましたしね」

桜華「……うう」

天亥「さあ、席に座ってください。皆さん、HRを始めますよ」

そして、C組全員が（と、言っても先生が来た時点で桜華以外は座ってた）席に着く。

天亥「さて、今日は皆さんが知ってる通り転校生が来ています」

その瞬間ガヤガヤと教室がざわめく

天亥「はいはい、落ち着いてくださいね。それじゃあ、入ってください
さい」

ガララと、扉を開けて一人の男子が入ってきた

天亥「では、自己紹介お願いしますね」

?「はいっ!」

その男子は黒板に名前を書いている。

その間、クラス全員（もっぱら女子だが）がざわめいていた。

桜華「（へえ、…どっちかと言うと、イケメンの部類かな?）」

男子は、名前を書き終えたらしく、生徒側を向く。

黒板には《焰 昇》と書かれていた。

昇「焰昇ほむじです。海逢かいおう学園から、転校してきました。よろしくお願
い
します!」

転校生…：焰昇は、元気よく、挨拶した。

天亥「はい。ありがとうございます。焰君は、ご家庭の用事で広島
から引越して来ました。皆さん仲良くしてくださいね。ちなみに
質問等は、休み時間に直接本人に言ってくださいね。それでは、席
は……。海月さん。」

桜華「はあい」

天亥「焰君。彼女の隣の席が、君の席になります」

昇「あつ、はい」

昇は、桜華の隣の席に座る

桜華「私、海月桜華。ヨロシクね、転校生君」

昇「ああ、ヨロシクな。海月」

二人は笑顔で挨拶をかわした

ミツケタ

昇「…？」

最後ノ一人

桜華「（……………空耳……………かな？）」

《四霊ノ宿星》 四人ガ……………此処ニ……………

……………同時刻……………真神学園……………2年A組……………

少女「…ん？」

少年「……………（気のせい……………か）」

サア……………

《四霊》ガ

目覚め始めル……

第壹夜↳転校生↳ 一之項（後書き）

どうも、やっと第一夜投稿出来ました！

桜華「あつ、作者！」

おつ、桜華ちゃん

桜華「つてか、なんで私此処にいんの？」

あとがきでの、ちょっとした不定期対談（笑）

桜華「あんたって、いつも不定期だよね（汗）」

いや〜、一応学生だし、それに……

桜華「それに？」

基本ノリと思いつ（ry

桜華「それ以上喋らなくていいや。ヘタレ作者！」

……orz

桜華「そんな凹まなくても……（汗）。あつと、この作品をご覧になっっている、読者の皆さま方！こんな作者が書いている作品ですが、これからもよろしく願います！……」

では、次話また！

桜華「あつ、作者復活した」

第壹夜↳転校生↳二之項(前書き)

続きやっとな投稿ですっ(汗)

第壹夜く転校生く二之項

…真神学園…昼休み

2年C組

桜華「焰君！」

桜華は隣の席の昇に話かける

昇「？海月、なんだ？」

桜華「いやさ、まだ学校の中見て回ってないでしょ？」

昇「んっ、ああ」

桜華「席、お隣同士になったんだし、友好を深めようと思ってね。これからお昼ご飯だし、買いに行くついでに学校の中、案内しようかなって」

昇「いいのか？」

桜華「うん。それに…」

昇「それに？」

桜華「購買の人、焰君にオマケしてくれるかもしんないし」

昇「もしかしたら、俺の他に、自分の分もって？」

桜華「うつ……（汗）」

昇は少し考え込む……

昇「……………じゃ、頼めるか？案内」

桜華「うん！」

…一階

桜華「一階には職員室と、一年生の教室があるんだよ」

昇「へエ……………」

桜華「天亥センサーに用事あるんなら、職員室にいった方がいいよ。高確率でいるから（笑）」

昇「ああ」

桜華「センサーといえば、この学校でかなり人気なセンサーいるんだよ。名前は、葵^{あおい}センサー。3年担当だから、あんまり会えないんだけど、綺麗で優しくて人気なんだ。あと、犬神センサーも、けっこういいセンサーだよ。まあ、苦手な人もいるんだけどね」

昇「へえ、一度会ってみたいな」

桜華「同じ学校だから、すぐ会えると思うよ」

昇「まっ、そうだな」

…三階

桜華「ここには、3年の教室や図書室とかがあるんだよ。……居にくいから、二階に戻らない？（汗）」

昇「ああ、3年が居るしな（汗）」

…二階

桜華「ここには、知つての通り私達2年の教室があるんだよ。あとは…霊研かな」

昇「霊研？」

桜華「オカルト研究会。前はそれなりに部員がいたんだけど、今じや会長一人なんだよね。けど、この占いけっこう当たるから、女子に人気なんだよ」

昇「へえ……」

？「クスス……、転校生君……占い……興味ある？」

桜華、昇「!?!?!?」

二人は、すぐに後ろを振り返る

桜華「って、ローアちゃん!脅かさないでよっ!」

ローア「クスス…、ごめんなさい。私わたくせいる聖流^{わたくせいる}〓ローアと言つ者です。
以後よろしくお願いしますね……」

昇「ああ。俺は焰昇。よろしくな」

ローア「クスス……、二人共……気をつけて……」

昇、桜華「?」

ローア「この先……辛い道が伸びてる……けど、二人には《力》があるの……、クスス…往くのは…哀しき《帝》か……、悲しみに嘆く、模され封じられた《宿星》の者達か……」

桜華「口、ローアちゃん……?」

ローア「クスス…ごめんなさい、少くし飛んでたわ……」

昇、桜華「(何処につ?!)」

ローア「クスス……、それじゃあ失礼するわ……、クスス……」
そう言つとローアは、ゆっくり去っていった……

昇、桜華「……………」

昇「な、なんだったん…………だ？」

桜華「……………さあ？……………つて、ああ！！！」

昇「！？どーしたっ」

桜華「購買！早く行かないと、昼休み終わっちゃう！！！」

昇「…………じゃあ、昼飯……………」

桜華「急ごう！！焔君っ！！！」

昇「おう！！！」

……………霊研部室

ローア「クスス……………」

ローアは水晶玉から、何かを覗くように見る

ローア「4つの魂に闇に堕ちた魂……………クスス……………、アラッ……………」

ローアは驚いたように少し目を見開いた……………」

ローア「……………」

ローアは、水晶玉の近くにある装飾された小箱を開く

ローア「……………また、この《力》が必要になるのね……………」

その小箱の中には、銃に似た何かが入っていた

ローアはそれを少しなぞると、パタンと小箱の蓋を閉じた

ローア「……………」

ローアは、ゆっくりと窓から外の景色をみる

ローア「…あの戦いだけでは、終わらないのね……………。…なら……………
何度でも叩きのめすのみ……………ね。私も、彼も……………ね。クスス……………
けど……………」

ローアは、もう一度水晶玉を見る

ローア「彼らの未来と、私達の未来が、^{わたくし}交わるなんてこと……………。何
が始まるのでしょうか……………ね……………」

ローアは、ただ天井を見上げフウ……………、と息をこぼした……………

第壹夜↳転校生↳二之項（後書き）

二之項投稿出来ましたっ！！！！！！！

桜華「あははっ、作者~~~~、時間……けっこうかったよね……？」

桜華……ちゃん？

桜華「作者はストックなしに書いていくのは知ってるよ。でも……時間かかりすぎてない？」

ああと、学校生活あるし、あと……

桜華「あと？」

……ゲームが楽しく

桜華「……こおんの……バカ作者があああああああ！！！！！！！！」

えっ、ちょ、まだ《力》……

ギヤアアアアアア……

桜華「ハアハア……えっと、こんなグダグタな作者が書いている作品ですが、これからもよろしく願います！！！！！！」

第壹夜 転校生 三之項 (前書き)

なっ、なんと！

PV1000突破！

ありがとうございます……！！

第壹夜　転校生　三之項

……放課後……2年C組

昇「あつ、海月」

桜華「何？焔君」

昇「この学校、剣道部つてあるのか？」

桜華「うん。どこか案内したいけどさ……、私これから用事あるから帰んなきゃなんないんだよねえ……」

昇「そつか。悪いな、呼び止めて」

桜華「ううん、大丈夫。じゃあ、また明日ね」

昇「ああ。今日、あんがとな」

桜華「うん。じゃ」

そう言うと桜華は教室を後にした

昇「さつて……、探すか」

……二階廊下

昇「やっぱ、一階だよな」

? 「はわっ、どいてくださあい!」

昇「んっ?」

その瞬間…

ドンッ

と、誰かにぶつかり

バサア

と、何が落ちた音が響いた

? 「あわわっ! !本が!」

昇「つてて…」

? 「あわわっ! !ごっ、ごめんなさいっ!本を運んでて、その、重くて、あっつと(汗)」

昇「あゝ、落ち着けて(汗)。俺は大丈夫だから。君は?」

? 「あつ、はい。大丈夫です!私、小村希羅こむらきいっていいいます!あなたつて、転校生の…、ええと…」

昇「焰昇。よろしくな」

希羅「はいっ!あつ、私A組なんです。」

昇「へえ。つか、本、大丈夫か？」

希羅「……………あああ！！！！図書館に返さなきゃ！！！！」

希羅は素早く本を拾う

希羅「じゃあ、焰君。またね！」

昇「ああ。気いつけるよ」

希羅「うん！」

そう言つて希羅は、三階へ向かった……………が……………

希羅「はわわわあ！！！！どいてくださあい！！！！！！！！！！」

昇「……………大丈夫……………なのか……………（汗）」

……………弓道場前

昇「ここ……………じゃないよな。あつ、ごめん。ちょっといいか？」

？「…なんだ？」

昇「剣道場に行きたいんだけど、道わからないから教えて欲しいんだけど」

？「…………お前、転校生か？」

昇「んっ、ああ。俺、焰昇。よろしくな」

？「…………影義巡夜かげよしじゅんや。A組だ」

昇「よろしくな、影義」

巡夜「…あっちだ」

昇「？」

巡夜「柔剣道場」

昇「そつか！サンキューな」

巡夜「速く行かないと終わるぞ」

昇「って！ヤバッ！！じゃあな！」

…………部活終了後…通学路

昇「ふう、やっぱりいいよな。剣道って」

昇は、楽しそうに独り言を呟っていた

目覚メヨ

昇「っ！」

目覚メヨ

昇「何…なんだよ！」

《 《ノ《力》ヲ持ツ者ヨ…目覚メヨ…

昇「くそっ…、一体…何の前触れだよ…」

その時、昇はまだ知らなかった…

その《力》が、戦いへと導く《力》と言うことに…

第壹夜↳転校生↳三之項（後書き）

前書きで申した通りPV1000突破しました！！！！！！

桜華「うっそ！！こんなのが！！」

こんな小説を見て下さった皆さま！

桜華「ありがとうございますっ！！！！………とここで作者……」

ん？

桜華「ん、じゃないでしょ？（怒）」

………あっ………と………（汗）

桜華「更新……遅れた言い訳は？」

いや、うん………プ○○テ2にはまって（笑）

桜華「………やってたソフトは？」

戦国BA〇〇RA（笑）

桜華「………あんたさ、東京魔人学園外法帖血風帖と、プレステ版の東京魔人学園剣風帖。もってんでしょ？」

うん。あと、ペルソナ4（笑）

東京魔人學園シリーズはまだクリアしてないけど(笑)

桜華「……………(怒)」

えっ、何で怒って……………

桜華「もう少し早く更新しろおおおおお!!!!!!!!!!(怒)」

ちよ、まつ!!!すみませんでしたああああああ!!!!!!(泣)

桜華「つたく……………。あつと、この小説を見てくださった皆さま!これからもこの小説をよろしくお願いします!!!!」

第壹夜・陰　く依代く（前書き）

第壹夜今回で終了です。

ちなみに「依代」は「よりしろ」と読みます

では、本編どうぞ！

第壹夜・陰　　く依代く

… 放課後… 新宿区… 東京医科大学病院… 病室

？「その転校生君、けっこうカツコイイんだよ。」

病室には、二人の影があつた

一人は海月桜華

？「へエ！もしかして一目惚れしたとか」

そしてもう一人の少女は、ベッドの上にいる

桜華「ちょー！！琉菜！！何言ってるの！ただ席が隣だったただけだつて！」

桜華は少女……神無^{しんむ}　　琉菜^{るな}に慌てながら言った

琉菜「そんな力強く言われると、ますます……なあ〜」

桜華「うう〜」

コンコン

琉菜「はい」

看護師「神無さん、そろそろ診察のお時間ですよ」

琉菜「あつ、は〜い」

桜華「じゃあ、私は帰るね」

琉菜「うん！またね、桜華」

桜華「うん！……………早く治しなよ！」

琉菜「もちろんだよ！！」

桜華「うん！じゃあね、琉菜！」

パタン……………

琉菜「早く治しなよ……………か……………」

琉菜は、天井を仰ぐ……………

琉菜「治らないかも……………って言ったら……………なんて……………言われるんだろっな……………」

ミイツケタ……………

琉菜「つつ！！！！だ……………れ……………？」

漆黒ノ常闇ヨリ……………今、封八解カレタ……………ミイツケタ……………我が
《星》ト同ジ者……………我が憑代……………

しかし……あり得ない事が起こっていた…

？「《宿星》の戦いは……終わりを迎えたのでは……。一体……何が……」

…目覚めし《力》は、新たな戦いの始まりだと、少年はまだ《視て》いなかった……

そして……

その《星》が、前とはまた、別にならなかつた……

第壹夜・陰　↳依代↳（後書き）

桜華「作者……？」

つ！……！桜華……ちゃん？

桜華「あんたはねえ……」

昇「まあ、落ち着けて、海月」

桜華「つて、焰君……！何でここに……」

昇「……さあ？」

つか、んなに怒らないで……！！

さすがにネタとか浮かばない事とかあるしっ……！！

昇「つか、頭使うの、無理だしな。作者」

昇君……、けっこう言っちゃうよね……

桜華「それより、陰　つて、いったい何なの？」

あつと、簡単に言えば

「同じ時間帯に起きた別の者達の物語」

かな（汗）

今回は、昇君が部活を探してる間にあった、友達のお見舞いに行っ
てた桜華ちゃんと、病人の琉菜ちゃんのお話だよ

桜華、昇「へえ」

つか、この作品不定期連載だから、いつ更新されるか分かんないけ
ど（笑）

昇「いや、笑えないっての」

ごめんごめん

つかね、少し（？）剣風帖に似てるストーリー展開になるかも（汗）

桜華「（ ）の？、何？」

うっっん……………、もしかしたらパクりっぽくなるかも（汗）

あと……………

桜華、昇「？」

ネタが思いつかな…

桜華、昇「……………アハハ」

えっ、ちよつと……………

ミギヤヤヤヤヤアアアアアアアア！！！！！！！！！！

昇「あつと、この作品をご覧の皆さま！！次回も、この作品をよろ
しく願います！！！！」

第貳夜〜覚醒〜 一之項（前書き）

なっ、なんと!!!

PV2500突破

&

ユニーク1000突破しました!!!

皆さまありがとうございます!!!

第貳夜　覚醒　一之項

… 数日後… 2年C組

希羅「あつ、いたいた！桜華ちゃん！」

桜華「あれっ、希羅。どしたの？」

希羅「えつとね……。あつ、焰君！」

昇「んっ？海月に…小村。……知り合いなのか？」

桜華「知り合いってか、友達」

希羅「去年同じクラスだったんだ」

昇「へえ」

希羅「あつ、なら焰君も行く？」

昇「何処に？」

希羅「お花見だよ！それに巡夜も一緒なんだ」

昇「影義もか？」

桜華「あれ、もう知り合いになってたんだ」

昇「ああ、柔剣道場の場所教えてもらっただ」

希羅「そっかあ。私と巡夜はね、幼なじみなんだあ」

桜華「影義君とも、去年同じクラスだったんだ」

昇「へえ。だから仲良いんだな」

希羅「えへへ、そうなんだあ。で、行く？お花見？」

桜華「うん！！行こっ！！」

昇「じゃあ、俺も。何処に行くんだ？」

希羅「新宿中央公園だよ！さあ、早く行こ！！巡夜、もう校門前で待ってると思うよ」

目覚めて…

桜華「?!」

希羅「？桜華ちゃん…？」

昇「どうした？」

桜華「ううん。何でもないよ」

巡りし星を宿す巫女……

《四聖》の《力》を宿す武士よ……
もののぶ

お願い……

継がれし哀しき《星》の……《宿星》の運命を……
さだめ

お願い……

解き放って……

アノ時のような……哀しみを……

二度と……起こさぬように……

桜華「誰……なの？……私に語りかけるのは……？」「

廻る

廻る

《宿星》は廻る

止まることなく……

これから

昇「よろしくお願いしますっ……っ……っ……っ……っ……」

第貳夜〜覚醒〜二之項（前書き）

PV3000突破！！

皆さまありがとうございます！！

第貳夜　覚醒　二之項

……真神学園…校門前

希羅「……あつ、いたいた！じゅんやっ……！」

巡夜「……希羅か……。海月に焰……、なんでコイツら

桜華「へへっ、希羅が誘ってくれてね」

昇「4人で花見なんだけど、いいか？」

巡夜「……ああ。構わない」

希羅「えへへ、良かった。それじゃあ、行こう！」

……新宿中央公園

昇「すっげえ……」

桜華「でしょ！！私、好きなんだあ、桜」

希羅「桜華ちゃんの名前に　桜　の漢字入ってるしね」

桜華「……それもだけどさ……、懐かしいんだよね……」

希羅「何か思い出とかあるの？」

桜華「……………ううん。……………でも、忘れちゃいけない《何か》があるんだよね。……………分かんないけどね(汗)」

桜華は苦笑いをしていた

昇「……………そっか…」

桜華「あつ、そんな真面目に考えなくていいって。ほら、屋台に行こー！」

昇「…だな。」

巡夜「で、何食べるんだ？」

希羅「ええと……………、全部!！」

昇「それ、無理だろ」

桜華「あつ、焰君知らなかったっけ」

巡夜「あいつ、『大盛りラーメン10分以内に食べたらタダ』を、5分で終わらせたヤツだぞ」

桜華「あと、友達とバイキング行ったときに、デザート全種類+……………ケーキやプリン諸々食いつくしたんだよね……………」

巡夜「あいつなら、屋台全制覇出来るぞ」

昇「……………冗談……………だよな？」

桜華、巡夜「……………だったらいいんだけど……………」

桜華と巡夜は、どちらとも、遠い目をしていた…

希羅「すいませ〜ん、たこ焼き10パック下さ〜い。あっ、3パ
ックは別の袋でお願いしま〜す」

桜華「……………ね？」

昇「……………いや、兄弟が……………」

巡夜「残念だが、あいつは一人っ子だ。幼なじみである俺が証言す
るぞ」

昇「……………マジか……………(汗)」

……………新宿中央公園はずれ……………

？「づうづう……………」

？「おゝおゝおー！」

刻は待たず刻々と《目覚め》を促す……………

まだ、彼らは知らない……

もう平穏な日々が残り少ないと言っことに……

第貳夜〜覚醒〜二之項（後書き）

PV3000突破ひゃほおおおお

!!!!!!!!!!

桜華「なんか、壊れてない？作者（汗）」

だってさ、ぶっちゃけると、こんなにたくさん見てくださる方々が
いるなんて……

本当に予想外だったよ!!!!

桜華「まあ、マイナーって言えばマイナー………なのかも（汗）」

東京魔人學園伝奇は楽しいよ!!!!つか、蓬萊寺一族が大つつっ好
きだよ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

それに、外法帖のおやかた様（天戒）も好きだよ!!!!!!!!!!!!

桜華「いや、力入れすぎのような……（汗）。それよりさ……」

それよりって!!

桜華「ペルソナと、デビルサマナーネタ………いつ出す気……?」

まだまだ先………かな？

まだ、四人覚醒前だしさ……

あと、ぶっちゃけるとデビルサマナー……ヤバいんだよ……（汗）

桜華「……どうゆう事？」

いや、ペルソナと魔人學園のゲーム持ってるけど……

……持ってないんだよね………デビルサマナー………

桜華「じゃあ、なんで書く気……？（怒）」

いや、テレビドラマの小説を見て「あっ、これ良いじゃん（笑）」
ってなって……（汗）

でも、頑張って書くから……！（汗）

桜華「いや、それは当たり前でしょうが……（呆）」

あはは………（汗）

あつと、この作品を「覧の皆さま……！

桜華「次の投稿も、よろしくお願いしますっ……！……！」

第貳夜〜覚醒〜 三之項（前書き）

遅れて申し訳ございません！！

本編どうぞっ！！

第貳夜〜覚醒〜 三之項

……新宿中央公園

希羅「ふあ〜。美味しかったあ〜」

昇「……………(汗)」

桜華「……………そつか(汗)」

希羅「?みんなは食べないの?」

巡夜「お前の食べっぷりを見たら、食欲が……………」

希羅は屋台全制覇を成し遂げ、クレープや今川焼に関しては、五個以上食べていた……………

希羅「???」

昇「キツくないのか…?」

希羅「何が?」

昇「……………(汗)」

希羅「???」

桜華「アハハ……………(汗)、でどじする?」の後

昇「ああ……………、どうするっ？」

桜華「いや、質問を質問で返されても（汗）」

巡夜「……………お前ら……………今日何しにきたのか忘れたのか……………」

桜華「……………あつ（汗）」昇「花見…だったな（汗）」

希羅「じゃあ、桜見に行こう！」

巡夜「誰のせいで脱線したのか……………」

希羅「……………？」

桜華「あはは……………（汗）まあ、とりあえず行こう」

……………数十分後 中央公園はずれ

希羅「うーん、綺麗だったね！」

昇「ああ、確かにな」

桜華「おっ、気に入った？」

昇「ああ！」

巡夜「そろそろ帰るぞ。先生に見つかりと、色々めんどくさいからな」

希羅、桜華「ハァーイ!!」

?「……ウ、ウ、ウ……」

希羅「えっ……?」

桜華「何の……声……」

?「ウガアアア!!!!」

四人「つつ?!!?!」

四人は声……と言うよりも獣が威嚇するような音の方を向く……

……そこに《異形》の者が四人を睨み付けていた……

希羅「っ、な……に……?」

巡夜「鬼……?」

桜華「なっ、何いってんのっ!!そんなっ……」

鬼「グオオオ!!」

昇「っ!走れええ!!」

《異形》の者……《鬼》は、四人を狙う

四人は逃げるが、《鬼》もその四人を追いかける

鬼「がああああああ！！！！」

鬼の拳が桜華を殴り殺そうとした……

…視点：焰昇

一体何が起きようとしてるのか、解らなかった……

だが、すぐに気付いた……

桜華「逃げてっ！！！」

あのままじゃ……

アイツが……

シンデシマウ……！

目覚めよ……目覚めよ……

紅き翼を用いて、炎と風、二つの力を宿し者よ……

《四聖》……《鳳凰》の《宿星》を宿す者よ……

目覚めよ！

体の奥底から、熱き何かが沸き上がる……

助けたい……

助けたい……！！

昇「っ、おおおおおお！！！！」

バギイツ！！！！

勝手に動いた体が、怪物を殴り飛ばす……その手に、まったく熱くない炎が宿っていた……

第貳夜〜覚醒〜 三之項（後書き）

皆さま、1ヶ月も放置して、申し訳ありません！！

昇「一体どうしたんだ？」

いや〜、今年受験生だし、ネタがつかばなくて（汗）

でも、最低1ヶ月に一回は更新したい！！

昇「まっ、出来るよう頑張ることだな」

うん！！

では、皆さま、次回もこの作品を

昇「よろしくお願いしますっ！！」

第貳夜〜覚醒〜四之項（前書き）

なんとか、少し早めに更新出来ました（汗）

それではどござー！

第三夜　覚醒　四之項

…視点：海月桜華

体が勝手に動いた…

ただ、友達を…

希羅を助けたかった…

でも…

鬼「がああああああ！！！！」

コワイ…

死ニタクナイ！！！！

大丈夫…

昇「っ、おおおおお！！！！」

バギィツと言う音がした…

《鬼》を殴った焔君の拳は…炎を纏っていた…

…視点・昇

昇「はあ…はあ…」

ゆっくりと息をはく……

一瞬脳裏に浮かんだのは………紅い甲冑を纏った剣士だった……

それが頭に浮かんだ瞬間、戦い方が分かった………いや………違う？

………思い…出した？

そんなふう感じた……

だが……

昇「（んなことよりも……！）」

俺は拳に灯った炎を見る、そして意識をその炎に集中させて……

昇「（動け……！）」

そう感じる

すると……

……ユラッ……

炎が揺れる

出来るのか……？

……いや、それは無いだろ……

昇「（木刀……刀の形に……！）」

ポオオと音をたてて、炎は刀の形になり俺の利き手……右手に収まる

昇「……マジかよ……」

何処のファンタジーだ！？

炎が操れるって！？

鬼「ぐがあああ！」

《鬼》が吠え、俺の方を見る……

昇「（なんでこうなった！？）」

たった数時間前には、ただの高校生として生活してたはずだ

もちろん海月達もだ

昇「（けど……今は……）」

グダグダ言ってるんねえ!!

昇「っ、どうにでもなれだっ!!」

こんなこと言うが……本当は……怖え……

けど……それ以上に……

昇「（アイツら……海月達を失いたくねえ……!!!!）」

少年は戦うことを選ぶ

少年は知らない

《異形》との戦いは、《宿星》により決められていたことを……

そして……彼らが産まれた年……1998年にも、《宿星》を宿す者達が戦っていたと言うことも……

全ては偶然に……いや、必然に……

そして、少年が戦う事を決意したその時……

彼らの生活は日常から非日常へと、変わっていった……

桜華「……………ええ！？」

第貳夜〜覚醒〜五之項〜（前書き）

投稿遅れてすみません！！

PV7000突破しました！

皆さまに感謝です！！

第貳夜　覺醒　五之項

昇は、炎で作られた刀を持ち構える……

鬼「おゝおゝお！」

鬼は拳を振り上げ、昇を殴ろうとする

昇「！遅いつ」

昇は拳を避け、鬼の腹を炎の刀で切りつけようとする……が……

ジユウウ

鬼「！！ギヤアア！！」

昇「っ、やっぱか！」

鬼は斬れず、斬った部分が焼け焦げた

刀と言えどそれは炎

物質でないため、斬撃を与えることは出来ない

鬼「あゝあゝあゝ！」

ドロオ……

昇「っ！！」

昇はギリギリで鬼の拳を避ける

昇「(くそっ、どっすりゃいい……!!)」

…視点：桜華

なっ、何……何で……?!

だって、少し前まで四人で喋って、屋台のたこ焼きとか食べて、笑
って……

けど、今は……

昇「っ!!」

焰君っ!!!!

どうして……なんで……なんで……!!

目覚めよ……

……えっ……?

目覚めよ……

黒き翼を用いて、水と氷、二つの力を宿す者よ……

《四聖》……《応龍》の《宿星》を宿し者よ……

桜華「……………!!」

脳裏に浮かんだのは……

巫女衣装を着た……女性で……

女性「氷牙」

彼女が言った言葉を口にする……

右手を……《鬼》にむけて……

桜華「氷龍牙」

……視点：昇

クソッ!!このままじゃ、体力切れでこっちがヤベェ!!

どうするっ?!

桜華「氷龍牙」

……海月?

……その瞬間……

ヒュン……

ズシヤア……！！

鬼「ギイヤアアアアアアアアアア！！！！」

桜華「……え………？」

昇「海……月………？！」

牙を模した氷が《鬼》の胴体に突き刺さっていた……

桜華「えっ、……あ、わ……私………、何………」

アイツ………海月もか………！？

鬼「グウウ………」

シユユウウ……

《鬼》は、大地に溶ける様に消えていった……

昇「……海月……」

ドサツ

昇「……海月っ……」

俺が海月の方を見たとき、海月が倒れる

昇「おいっ……」

俺は海月に近づき、海月の様子を見る……

昇「……気を……失ってんのか……」

俺はフウ……と、一息つく……

……あっ……やべ……

昇「影義っ……小村……」

俺は二人の方を向く

巡夜「……焔……今……のは……」

小村の方は気を失っている…

影義は、小村を守る様に抱きかかえていた…

昇「……俺が知りてえ……」

……ファンファンファンファン……

昇「！？」

何だ？！

巡夜「この音……！焔、逃げるぞっ……」

……はっ？

昇「何で……」

巡夜「パトカーが来てるっ……！」

ああ、だからサイレンが……っ……

昇「……ヤベエじゃねーかっ……！」

俺は海月を抱えて、影義は小村をおぶって走る……！

《四聖》の内、二人が目覚め、もう一人はまだ、目覚めず眠り
についたまま……

だが……目覚めは必ず訪れる……

さあ、あと二人……

《四聖》の《宿星》がそろっ……

第貳夜 〽 覚醒 〽 五之項 〽 (後書き)

桜華「さあて……作者…… (怒)」

皆さま!!!

1ヶ月以上放置すみませんでしたあ!!!

昇「つか、なんでこんな遅く……」

あと、バトルシーンが難しかったし、ネタが…… (汗)

桜華「まあ、慣れないことだからね……」

昇「あつ、そう言えば……」

???

昇「小説家になろう、パスワード打ち込むの、めんどくさくてグダグタのびたんだよなあ…… (黒笑)」

ちよつ、昇君っ!!! そんな黒かったけ?! 君!!!

昇「あと、ゲームして、忘れかけてたとか……」

アハ、アハハハハハ

桜華「……へエ……」

……じゃ、バイバ~~~~イ

昇、桜華「逃げるな作者ああ!!!!!!」(怒)「

桜華「あと、皆さま!これからも不定期連載ですが、これからもこの作品をよろしくお願いします!!!!!!」

第貳夜・陰々異人々（前書き）

PV8000、あしがとじいぢとまおしー！

第貳夜・陰々異人々

…昇が覚醒する数分前…

鬼「ウゝウゝウウ……!!」

?「『デスバウンド』 オオ!!」

ドカアアアア!!!!

強力な《何か》の攻撃が、数体いた《鬼》を攻撃する

鬼「グガアアア!!」

そして《鬼》は倒れ、消えていった……

?「つたく……、んだよこいつら……。《悪魔》のヤシらとは、違
うしよ……」

一人の少年が、呟く

その時

鬼「おゝ おおお!!」

少年「!!！」

残っていた《鬼》が、少年に攻撃しようとする……

? 「まったく、そんなの考えてる暇があったら、とっとと残りも殺^ヤる
!! テュール、『ベノンザツパ』!!！」

その刹那、斬撃が残っていた《鬼》を切り裂く

鬼「ギヤアアアア!!！」

そして《鬼》は全て消え失せた……

少年「ああ…、サンキューっす。先輩……」

先輩と呼ばれた少女は「はあ……」とため息をついた

少女「まったくね、あんた戦闘中に考え事するなんて、ばかねえ……」

少女は呆れたように言う

少年「しゃないじゃないっすか。俺らの知ってる《鬼》とは違うし」

少女「まあね。けど、あんたが考え事ねえ……。小さい身長にある小さい脳みそでも、そこまで考えられるのね」

少女はケラケラと笑う

少年「って！！！！それど ゆう意味だつ！！！！それに今は……アレっただけどっ！！！！すぐにあんたの身長なんてっ！！！！追い抜いてやるうううう！！！！！！」

ギャアギャアと少年は騒ぐ

少女「ったく……、あんたはうっさいわねえ……」

？「あつ、あの……」

そこにもう一人の少女が声をかける

少女（以後先輩）「んっ？どうしたの？」

少女「はいっ、こことは違う所で、強い《何か》の反応が……」

先輩「さっきみたいなの！？」

少女「えつと……、似ている様な……でも、それよりも温かくて……、あつ！！あのっ、ここに誰かが来ますっ！！」

先輩「げっ、マジ！？逃げるわよっ！！あんたも速く来なさいっ！」

少年「おっ、おお!!」

先輩「頼むわ!」

少女「はいっ!ウゥォルウゥァ、『トラフリー』!」

その瞬間、三人の少年少女は消えていた……

……ツタ……

三人が消えてすぐ、一人の人間が現れた……

その身は黒……忍者衣装に包まれていた……

忍び「……またか……」

その者はフウ……と息をつく……

忍び「一体……この町（新宿）に何が起きているんだ……」

その者は、空を見上げた……

その空は人工の光によって、星が見えにくい空だった……

第貳夜・陰々異人々（後書き）

断空我さん、そして176Uさん、感想ありがとうございます！！！！！！

そしてPV8000突破しました！！

皆さま、ありがとうございますっ！！！！

桜華「というか、今回は……」

うん、出したよ。この小説のメインの一つ、ペルソナ……！！

桜華「つか、いいいいの……（汗）」

いや、いいって（笑）

桜華「あのさ、『テュール』と『ウァルウァ』って、何？」

あつと、どっちも北欧神話で、テュールは本来、法と豊穡と平和をつかさどる天空神だったんだけど、激しい戦乱の時代で、戦争の神であるオーディンの信仰が台頭して、天空神から軍神に成り下がったんだよ。

ウァルウァは巫女って意味で、ルーンとセイズって言う降霊術

と、ガントつて言う幽体離脱の様なものである魔術を、行つ女性の事なんだよ。

桜華「なっ、長っ……………」（汗）

うん、長くなつた……………」（汗）

桜華「で、あと一人のは……………」

同じ北欧神話に出てくるのだよ

桜華「神様なの？」

……………さあ？

桜華「ええ！！もったいぶらないですよ！！！！」

まあ、また出てくるときに分かるよ（笑）

皆さま、亀並更新の小説ですが

桜華「これからもよろしくお願いします！！！！」

第参夜、奇縁、一之項（前書き）

やっと、第参話ですね（汗）

どいぞー！..！

第参夜〜奇縁〜一之項

ガヤガヤ…と、いつもの様に教室はにぎわっている。

ガララ

女子A「あつ、桜華、おつはよ〜」

桜華「あつ、うん。おはよ〜」

女子B「あつれ？今日は来るの早いね。いつもHRギリギリなのに……」

桜華「あつと、なんかね……色々〜」

女子A「…桜華、大丈夫？元気なさそうだけど……」

桜華「え、…うん。ちよつと考え事……」

女子A「…そつかあ」

女子B「まつ、ボオ〜として、ボケかまさないでねえ」

桜華「ちよつ、酷っ！〜」

桜華はケラケラと笑いながら、自分の席につく

桜華「おはよ、焰君」

昇「！おう……大丈夫……か？」

桜華「……本音言つと、混乱してる……。体調は大丈夫だけど」

昇「そうか。俺も、昨日のは夢か何かって今でも思ってるしな」

桜華「うん……、夢だっと思っていたいけど……」

昇「ああ、でも……」

ざわざわとする教室の中で、誰かが噂する

男子A「なっ、知ってつか！新宿中央公園で《化け物》見たヤツがいるって！……」

男子B「俺は、公園のはずれの所に、炎の跡や氷の欠片が見つかったとかを聞いたぜ？」

昇、桜華「……」

昇「噂になってるし…な」

桜華「…うん。『火の無い所に煙はたたない』っだっけ？先人さんの言うことって、的えてるなあ……」

昇「ああ、そうだな。それよりも、だ。……海月、《あの力》使う前に……声、聞こえなかつたか？」

桜華「っ！…！…焔君も…？」

昇「ああ、《四聖》の《宿星》……だとかなんとかだったよな。……あと、武士みてーな人も見たし……」

桜華「えっ？武士…、私、巫女さんみたいな人だった……けど……」

昇「…！！……どうなってんだ……」

キーンコーンカーンコーン

昇、桜華「あっ……」

昇「んじゃ、この話……」

桜華「昼休み…だね。影義君や希羅も誘おう」

昇「……だな」

二人は予想していなかった

この後、……昼休みに一つの嵐が来ることを……

第参夜く奇縁く一之項（後書き）

断空我さん、176Uさん感想ありがとうございますー！

今回は、《ペルソナ》について、説明しようと思いますー！

昇「って、なんでここで……」

いや、知らない人がいるだろうし、一応説明をと……

昇「そう言う事が」

うん！では……

ペルソナ（Persona）と言うのは、ラテン語で「仮面」と言う意味です。

この小説はアトラス（ATLUS）から発売された《ペルソナシリーズ》を題材の一つにしています

ペルソナシリーズは、今のところ「女神異聞録ペルソナ（のちに、PSPでPersonaとして、移植）」、「ペルソナ2罪」「ペルソナ2罰」、「ペルソナ3（のちにFes、PSPでP3Pに）」、「ペルソナ4」となっています。

ペルソナ2を除くと、すべてのキャラは高校生です。

2においては、高校生もいますが、大人もペルソナをだせるんです。しかも、異聞録のキャラもでてくるんです。

肝心のペルソナについてですが、ペルソナと言うのは「もう一人の自分」……時に聖母の様に優しい自分、時に般若の様に恐ろしい自分 自分の仮面の一つ……それを神話上の神々の姿で表し、敵：悪魔、シャドウ、時に人間……と、自分達の未来や大切なモノのために戦う

……と、言った感じでしょうか(汗)

上手く説明出来てればいいんですが……(汗)

あと、どうでもいいんですが、異聞録と2、3と4では戦闘の仕方とか違うんだよなあ……

ちなみに、私は4とPSPのペルソナをもっています

このシリーズはオススメできます！

少しでも興味をもって下さったら幸いです!!

昇「長くなったなあ……(汗)」

あっ、本当だ……、また長々しく……(汗)

昇「んじゃ、そろそろ……。皆さま、次回もこの小説をよろしくお
願いしますっ！……」

ああ、言われた！！

第参夜〜奇縁〜二之項（前書き）

今回は嵐と言つ名のギャグです（笑）

…ギャグになつてるかな…（ええ…）

第参夜〜奇縁〜二之項

昼休み

キーンコーンカーンコーン

昇「……腹減ったぁ……」

桜華「アハハ……ってか、それよりも大事な話があるって!!」

昇「……あっ、だな（汗）。んじゃ、小村と影義を……」

ガララ、と扉が開いたその瞬間……

？「しっつれいしまぁ すっ!! 焰昇って人、いる〜!!?」

その瞬間、クラスにいた人全てが、昇を見て……

……「ご愁傷様」と言わんばかりに、手を合わせていた

昇「えっ、なっ、何で!？」

桜華「…………ごめん、焰君…………、私でも助けられないかも…………」

昇「海月!？」

?「あつと、君が焰昇ね!!私は真神学園新聞部部长、あまもり みかぜ天森美風!
!君のこと、取材させてもらっわっ!!」

昇「はっ、いや俺、用事が…………」

美風「んなもの、どうでもいいわ!…二人とも、早く入ってきて!」

扉の前には、男女二人の下級生がいた

?「はっ、はい!」

?「りょーかい、先輩…………、失礼します」

?「ええと、失礼します…………」

桜華「美風…………あの二人は?」

美風「あつ、桜華じゃない。新入部員よ、新入部員!」

桜華「…………まさか、あんた…………手帳を…………」

美風「使ったのは、ちびっこだけよ」

?「誰がちびっこだああ!!!!」

「ちびっこ」と、言われた少年は、確かに小さかった…

桜華「……………高校一年……………」

昇「……………中学生じゃ……………」

?「中学生じゃねえ!!!!!!!!!!黒月狼!!!!!!この一年だっ!!!!!!」

美風「ほら、あんたも」

美風は、もう一人…女子の方に声をかける

?「あつ、はいっ!同じく一年の、日ノ村明日音ひのむら あすねと言います。よろしく願います」

ペコリと、明日音は頭をさげる

美風「どう!!これが新生新聞部よっ!!さあ、焰昇君っ!!色々喋ってもらっわよ!!!!!!」

桜華「ああと、美風?悪いけど、私達、昼ご飯を他のクラスの子たべる予定が……………」

美風「……………ふうん……………」

美風は、バック（新聞部専用）から、手帳を取り出し……

美風「お〜うか……………」

賭け事してたこと……

先生達にバラすわよ」

美風はニコリと、しかも桜華にしか聞こえない音量で、喋る

桜華「つつ！！！ちよっ、待って！！それはダメ！！本当にダメエ
エエ！！！！！！！」

美風「なら、諦めてもらっわ」

桜華「……………ごめん、焰君。さすがにこのネタで脅されると……………」

昇「……………何なんだ、あの手帳……………」

狼「先輩専用…………『弱味手帳』……………」

昇「『弱味手帳』……?」

狼「この学園の問題児や、有名なヤツらの弱味と言う弱味、およびその周辺の、中学校、高校……、ましては、OBやOGの情報……、そして、先輩の情報網と言う情報網が、書かれている……らしい……」

昇「いや、らしいって……」

狼「……弱味握られてるから、安易に盗み見ることなんて、できねえし、見たヤツ曰く……暗号化してて解んなかったらしいぜ……」

昇「なあ、天森って、何者なんだ……」

狼「……」

狼は、思い切り目をそらす

昇「って、おい!!なんで目をそらした!!今っ!俺、変な質問したかつ!?!」

美風「そこ、話は終わった……?」

昇「へっ……?」

美風「さあ……て、質問タ……イム」

昇「えっ、いや……、うっ、海月……!」

桜華「……………、ごめん。日ノ村ちゃんに、黒月君……………、パン買いに
いこうか」

狼「……………はい、そツスね」

明日音「えっ、でも……………」

狼「気にすんな、明日音。行くぞ」

昇「つて！！！！マジかよっ、海月さぁん！？？」

美風「ゆっくり行ってらっしゃ〜い。さって……………、洗いざらい話
なさあい！！！！」

昇「見捨てんなあ〜！！！！！！」

その日の昼休み……………、昇の悲鳴(?)がひびいた……………

昼休み終了間際……………

昇「……………」

桜華「……………生きてる？焔君…？」

昇「……………腹……………減った……………」

桜華「……………はい。カレーパン。奢りだよ」

昇「っ！！！！海月っ！！！！」

桜華「まあ、頑張れ……、あと一週間は狙われるから……」

昇「……………」

昇はドゴツと、机に頭をぶつける

桜華「…………頑張れ。本当頑張れ。頑張れば逃げ切れるから。…………弱味握られてなければね…………、ハア……」

アハハ…………と、桜華は乾いた笑いを漏らした……

第参夜〜奇縁〜二之項（後書き）

176 Uさん、断空我さん!!

感想ありがとうございます!!!

桜華「今回は更新早くなかった？」

ギャグに仕立ててみました（笑）

波に乗れてズガガと（笑）

桜華「何で、いつもこれぐらいに……」

ギャグ系だから？つか、昇君の災難来る（笑）

桜華「ああ。美風、一度ターゲット決めると、しつこいから……」

むしろ、賭け事してるって……

桜華「……アンタのせつ」

メタ発言禁止いい!!ああ、あとがきもグダグダに……

桜華「……とりあえず……皆さま、次回もこの小説をよろしく願
いします!!」

あっ、ちなみに桜華ちゃんと昇君、陰まで出番無いから（笑）

桜華「……………ええ!？」

第参夜〜奇縁〜三之項（前書き）

PV10000突入！

皆さまありがとうございます！！

第参夜〜奇縁〜三之項

目覚メヨ……

目覚メヨ……

《四靈》ノ《宿星》ヲソノ身ニ宿ス者ヨ……

目覚メヨ……

放課後…通学路

巡夜「……………」

希羅「……………ねえ、巡夜……………」

巡夜「……………なんだ？」

希羅「昨日の……………だけど……………、なにがあったの……………？」

巡夜「……………」

希羅が覚えてないのも無理はなかった

……突如目の前に表れた《異形》……
彼女の場合……すぐに気を失ってしまった事と、防衛本能が働き、
記憶が曖昧になっていたのだ……

巡夜「得に何も……」

希羅「…あのね、巡夜。私……逃げたくない」

巡夜「……希羅」

希羅「確かに、何も聞かなければ《日常》の生活ができるよ……。
でも……」

希羅はスウ……、と息をすい、フウ……とはく……

希羅「今、《日常》に戻ると、後悔すると思うんだ……。昨日の事、
曖昧だけど……きつと今逃げると、大切なモノ……失っちゃうと思
うから……!」

巡夜「……お前はな……」

巡夜はため息をつく……

強い想いを宿す眼……

こんな眼をする希羅を止めることは出来ない……

幼なじみである巡夜には分かりきっていた事だった……

希羅「お願い、教えて……。昨日、何があったの」

巡夜「……分かった。」

巡夜は、昨夜……昇と桜華が《力》に目覚めた夜の事を話そうとする……

……その瞬間だった

?「ウオ」オ「オ」オオオオオオ!!!!!!」

巡夜、希羅「!?!」

咆哮が上がり、《異形》……《鬼》が姿を現す……

巡夜「っ、昨日の……!」

希羅「あ、ああ……、あれ……きのう……!!」

希羅は思い出す……

異形に殴り殺されそうになった時、桜華に突き飛ばされ助かった事を思い出す……

希羅「っ……………いや……」

巡夜「希羅っ！チツ……」

昨晚の事を思い出し、希羅は動けなくなる……

彼女は殺されかけた……………《鬼》に殺されかけたことが、恐怖となっていた……………

形は多少違えど、今この場に《鬼》がいる……………

殺されかけたこと 《死》の恐怖が身体中を巡り、彼女は動けなくなっていた……………

希羅「いや……………（死にたくない…死にたくないっ！！！！！！！！）」

？「さつて……………、私のカンが正しければ……」

ある三人組が離れた所で、二人 巡夜と希羅 を見つめる

……………

？「けっ、けど……………」

？「もしもの時は私達がいけばいい」

？「でも、なんであの二人を……」

？「アンタなら気づいてるでしょ？あの二人は、昨晚、《目覚めた》あの場所にいたんだから！！きつと、あの二人も、何か《力》を……、もしくは、それとは違う何かを持ってるか……。記者のカンよ！」

？「あゝ、りょーかいツス……」

？「さて……、どうなるか……、見せてもらおうわ……」

ゆっくりと運命は廻る

定められし《宿星》の者は目覚め、戦つために……

しかし……そこに一石……

運命の定めには当てはまらない者が介入したら……

クルクルと運命は廻る……投じた一石　奇縁　はこの廻る運命に……どんな波（影響）を与えるのか……

第参夜〜奇縁〜三之項（後書き）

断空我さんわ176Uさん、感想いつもありがとうございます！！
そしてっ、なんと！

桜華「なにになに？」

PV10000突破しましたああああああ！！！！！！！！！！

桜華「……………今日エイプリルフルじゃないよ？」

いや、いやいやいや！！マジだよ！！本当だよ！

この作品を見てくださる皆さま！！！！

本当にありがとうございます！！

桜華「この作品、ここまで行くとは……………」

いや、全く。ただ『書いてみたい！』って言う衝動で書いたから
笑)

本当に驚いたし、嬉しい限りです！！！！

皆さま！！

不定期小説ですが…

桜華「これからもよろしくお願いします!!」

お願いします!!

第参夜ゝ奇縁ゝ四之項(前書き)

更新遅れてすみません!!!!!!

第参夜〜奇縁〜四之項

希羅「いや……、来ないでっ!!」

巡夜「くっ……!」

巡夜は考えを巡らせる……

巡夜「(どうする……、鬼は目の前に……来た道を戻れば希羅を逃がすることができる……)」

そう考えていた時だった……

鬼「ウゝオオオ!!」

巡夜「っ!!クソがっ!!」

巡夜たちの後ろ……希羅を逃がそうとした道……から《鬼》が現れる……

これで、二人の逃げ道がなくなる……

鬼1「ウゝウウウ……」

鬼2「グウウウ……」

希羅「いやっ、し……死にたくない……っ……」

巡夜「っ……………！！（なんでだ……………、なんで俺達は狙われてるんだ……………、なんで……………）」

こいつ（希羅）を守る力が俺に無いんだっつ！！

アイツら…焔や海月には……………よく分からないが…あの化け物と闘つ

……………守る力がある……………

くそっ、俺にも……………守る力が…っつ！！（）」

目覚めよ

目覚めよ

巡夜「！？」

その背に背負いしは蓬萊山、基礎なる地と恵みを施し緑、二つの力を宿し者よ……………

《四聖》……………《靈龜》の《宿星》を宿す者よ……………

目覚めよ……………

巡夜「地壁……………」

ゴゴゴツと、コンクリートを突き破り希羅、そして巡夜の前後に土で出来た壁が現れる……

巡夜「土槍つちやり……！」

その瞬間

グサツ、グサグサツ……

鬼「ギアア……！」

壁から土の槍が出て、前方の《鬼》を貫く

巡夜「希羅っ……！」

希羅「……じゅん……や……？」

巡夜「逃げろっ……！」

希羅「……えっ……？」

ゴツ……ゴツ……

《鬼》が、土の壁を壊そうと殴りかかる

巡夜「くそっ……！」

希羅「っ…………、じゅ、巡夜も」

巡夜「俺はいい！！早くいけっ！！」

びしっ…………びしっびしっ…………

土の壁にヒビがはいつていき…………

鬼「ウゝオオ！！」

ぐじぐじぐじ…………

土の壁は、崩壊した…………

第参夜〜奇縁〜四之項（後書き）

176Uさん、断空我さん感想ありがとうございますー！！

桜華「作者……、どお〜して更新遅れたの……？」

あはは〜〜〜……………

『ポケットモンスターブラック』と『ペルソナ』、そして『風来のシレン』って言うゲームが楽しくて……………（笑）

桜華「つまり、遊んでて忘れてたと……」

いや、更新しようと思ったらいつの間にか12時過ぎてt……

桜華「いやっ、問題だって、それー！！しかも、夜遅くでも寝ないで何してんのっ！？」

……………アツハ、特に（笑）

桜華「……………」

あの……………桜華さあ〜ん……………？ちよっ、落ち着い（ry

桜華「うっさい、こんの……………バカ作者ああああー！！起きてんなら更新しろおおおおー！！！」

みぎやややややややー！！！！！！！！！！

桜華「はあはあ……、コホン……、失礼しました（汗）
皆さま、こんな駄文ですが、次回もよろしくお願ひします！！」

第参夜〜奇縁〜五之項（前書き）

2ヶ月更新遅れすいませんでした！！

本編どうぞ！

第参夜〜奇縁〜五之項

鬼「ゲウウウウ……！！」

希羅「あつ……！」

巡夜「チツ、逃げろっ！！」

巡夜は叫ぶ……しかし……

希羅「っ……！こな……いで……！！」

希羅は恐怖で動けずにいる

鬼「ゲウウウウ……ガアアア……！！」

鬼が拳を振り上げ希羅を狙う

希羅「（死……ぬの？）」

希羅には、スローモーションを見るように、鬼がゆっくり動いているように見えた……

……そして

ドゴオ……

「……………えっ？」

声を発したのは……

希羅だった……

鬼「オオオオ！！！！」

雄叫びを上げる鬼

そして……希羅の目の前には……

巡夜「……………」

横たわる巡夜がいた……

希羅「じゅ……んや……？」

鬼「ウゝウゝウウ………」

鬼は狙いを動かない巡夜へと変える……

希羅「（な………んで………？何で何で何で何で何で何で何でなんでなんでなんでなんで………）」

巡夜「ぐっ………」

希羅「っ！！巡夜！！」

巡夜「……………ろ………に………げる………」

鬼「オオオオ！！」

希羅「（殺………される？巡夜が………？）……………メ………テ……………ヤメ………テ………、ヤメテエエエエ！」

巡夜「！？、希羅！！」

ドオオオオン……

その刹那、光が満ち轟音が轟いた……

第参夜〜奇縁〜五之項（後書き）

断空我さん、176Uさん。感想ありがとうございます…！

桜華「よし、作者。言い残すことは？」

いやいや、待って！

理由聞いて…！

昇「理由ってか言い訳……」

昇君ヤメテ…！わざと…？

昇「…あつ、わりい」

こんなところで天然…？

桜華「ほんと、なんで更新遅れたの？」

あつと、冬休みになったとたん、なんか書けなくなって…（汗）

昇「スランプか？」

いや、自分でもよく…（汗）

で、1ヶ月過ぎてヤベェなど…

で、グダグタなつて今頃……

桜華「そっぴやP3Pやっってたって」

コロマルカワイイよ!!

昇「……………少しは反省の色見せろよ(汗)」

桜華「……………ハア」

……………えっ、呆れた？

桜華「この小説をみてくださる皆さま、更新遅れてしまいすいませんでした!!」

……………えっ？えっ？

昇「これからもこの小説を」

桜華、昇「よろしくお願ひします!!」

……………あれ、無視？

第参夜・陰々噂々（前書き）

更新遅くてすいませんっ！！

仮想月は元気です！

皆さまは地震の被害、大丈夫ですか！?!?!

第参夜・陰々噂話

……巡夜達が鬼と出会う数分前……2年C組教室

桜華「……生きてる？焔君……？」

昇「……なあ、あいつなんで、あんなに引っ付いてくんだ……」

昇は机に突っ伏したまま、話す

桜華「ネタを掴むためだって……。……。けど、珍しいなあ……」

昇「？何がだ」

桜華「美風って、部活中でも、帰宅時でもストーカーのごとく、ついてきて取材するの……」

昇「……」

桜華「だから、もう帰ったなんて……。まだ学校内に焔君残ってるの……」

昇「……マジなのか、それ……」

桜華「うん。だからさ……明日頑張れ」

昇「……プライバシーとか……」

桜華「無いって。美風の前じゃあ……。あつ、そっぴや知ってる

？この学校の噂」

昇「噂？」

桜華「そつ！まあ、七不思議とかじゃないんだけどね」

昇「へえ」

桜華「例えば…犬神センサー」

昇「……ああと、三年担当の先生……だったよな？」

桜華「そつ。タバコ吸ってて、無精ひげはやしてて…。」

昇「で、その先生にどんな噂が？」

桜華「うん。…普通先生って、数年間したら別の学校に転勤するよね？」

昇「ああ」

桜華「けどさ、犬神センサーってさ……無いんだって。一度も」

昇「……転勤が、か？」

桜華「うん」

昇「でもよ、桜華達が入学する前にいて、まだ3年目とか……、そんなんじゃないのか？」

桜華「普通はそうだけども……、けど、犬神センサーは……この学校が開校してからずっといる……とか……」

昇「はあ？いやいや、どんな妄想だよ」

桜華「まあ、噂だし」

昇「それが本当なら、人間じゃないって話になるぞ……」

桜華「だよね……。まあ、この噂は美風から聞いたものだし」

昇「あいつ、噂もばらまいてんのか」

桜華「ううん。この噂は、昔っから流れててね……。だから美風は、気になってるみたいなんだよね」

昇「気になってるって……。噂だろ？」

桜華「噂だからこそ、って美風が言ってたよ」

昇「？」

桜華「ほら、『火の無い所に煙はたたない』、だっけか……。噂の元があるから、その元を探して取材と言う名のストーキングしたいって」

昇「いや、ストーキングって……」

桜華「間違ってる？」

昇「……………いや、間違ってないな」

桜華「あれは本当、取材と言う名のストーキングだよ……」

昇「そついや、お前も取材受けたのか？」

桜華「受けたと言うかストーキング……」

？「もう下校時間ですよ？」

桜華「！！あつ、天亥センサー……」

天亥「部活はどうしたんですか？」

桜華「帰宅部です」

昇「今日剣道部休みです」

天亥「なら、早く帰ってくださいね？そのまま学校に明日まで残りたいなら、別ですが？」

桜華「いやいやいや、今帰ろうとしてたんです！！ねっ！！？」

昇「えつ、ああ」

桜華「と、言う訳で……！！」

桜華はカバンを素早く持ち……

桜華「天亥センサーさよーならっ!!」

ダッシュで帰っていった

昇「つて、おい!!あつと、天亥先生さようなら」

天亥「ええ、さようなら」

……真神学園…校門

桜華「ハアハア、フウ」

昇「おい、海月!!」

桜華「あつ、焰君……。ごめん」

昇「いや、別にいいけど……。海月ってさ」

桜華「んっ?」

昇「天亥先生嫌いなのか?」

桜華「うん……。嫌いではないなあ。何て言うか……。人がいたり、放課後じゃなければいいセンサーだよ。まあ、遅刻したら怒られるけど」

昇「いや、そりゃそうだろ。しかし放課後って……」

桜華「うん、なんだろ?一緒にいちゃいけないって……。本能が

「？」

昇「それ、苦手と一緒にじゃ……」

桜華「ううん。そんなんじゃないし、違う。なんだろ、本当」

……真神学園……2年C組教室

天亥「うゝむ。気づかれてる……のでしょうか？」

天亥はクスリ……と笑う

天亥「さて、職務に戻りましょうか……まだ、動くときではありませんから……ね」

天亥は職員室へと、歩を進めた……

第参夜・陰々噂話（後書き）

うわあああ！！

地震来たよ！！

むしろ津波がヤバイよ！？

桜華「ちよつ、作者！？」

皆さはま大丈夫ですか！？

怪我とか放射能とか！？

昇「放射能……。ああ原子力発電所か……………」

そつだよ。私県内だけど山だったため、津波被害は受けず放射能の
屋内退避もなく……………」

桜華、昇「……………へっ？」

桜華「今自分の情報言っ……………」

んなの今はどうでもいい！！

皆さま遅くなりましたが、大丈夫ですか！！

皆さまの無事を祈っております！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8479j/>

東京魔人學園 異説伝 ~ 靈都帖 ~

2011年10月6日10時08分発行